

本試験直前の過去問の活かし方

こんにちは、九頭です

今回は**本試験直前の過去問の活かし方**についてご紹介したいと思います

以前「合格率が10%の試験」と「合格率が20%以上」の試験の違いについて話しましたが

20%以上の試験は過去問と同じ出題をされることも多いので過去問の学習は必須といえます

点数に結び付く可能性が高いので過去問を解くと解かないでは点数が変わってくる可能性が高いと言えます

では、10%の試験はどうか？

ここ数回の間に出题された問題が本試験に出题される可能性は正直高くはないです。

特に税理士試験では前年の過去問を解いていると

「そこは今年出ないだろ」

なんて茶化されることもあります。

また、出題されても過去に出题された形とは違った形で出題されることも珍しくありません。

じゃあ、過去問なんて必要あるの？

と思う方もいるかもしれないけど、多いに必要です。

僕は税理士試験最終年、本試験前に過去問をチェックしていなければその年の法人税法に合格していなかったかもしれません

そのくらい過去問を有効に活かしました

では、どのように過去問を活かしていたのか？

ポイントは3点ありますので順番にご紹介していきます

1、時間配分

僕が合格した法人税法ですが

過去2回分の理論問題を見ていると共通点にあることに気が付きました

過去2回分の理論問題は2問構成で

- ・1問は出題可能性が高いと睨まれていた論点
- ・もう一つは高得点が見込めない難問

という構成になっていました

これを見て

「もし今年も同じように出題されたらどのように時間を使っていくか？」

といった想定をしました

これをしておくことで本試験でどのように時間を使っていけば良いか？

が試験前に分かっているので時間ロスを防ぐことが出来ます

そして、本試験は手を出してはいけない問題が出題されることもあります、過去問を解くことでそれを知ることが出来ます

このように本番に向けての時間配分を予め決めておくことが出来ます

2、問題の「文章」に慣れる

本試験の問題は当然ですが、普段の学習で解いている問題とは違う人たちが作っています
いつも解いている問題は講師の先生が作成し、本試験は試験委員の先生が作成しているわけですから

そのため、問題の言い回しなどが普段とは違って分りにくいこともあります
これは仕方のないことで、本試験の問題を作っている人たちは専門学校の講師の先生と違って問題を作ることに慣れていない人が多いのです。

1年に何問も作成する人と1年に1問しか作成しない人では差があって当然ですよ

そうすると、1年に1問しか作成しない試験委員の先生は何を参考にするか？

それは、過去問ではないか？と考えられます

試験問題を作ったことのない人が試験問題を作れ、と言われたら過去問を参考にするのはごく自然なことでしょう

なので、過去問を解く＝今年の本試験に慣れることにもつながります
なので、問題文に慣れる意味でも過去問は大事

3、実際に過去問を解いてみることで勉強の質を高めるきっかけに出来る

当り前の話ですが
本試験＝難しいものです。

なので、問題文と解答を見て、自分の頭でこのような解答を導けるようになるにはどう勉強しなければならないのか？
を考えるきっかけになります。

気付いて、考えて、行動することで勉強の質が上がっていきます。

僕自身、税理士試験の解答速報を見て何度も
「講師の先生のようにこの答案を作れるようになるにはどうすれば？」
と考えました
なので、僕の実力を引き上げてくれたものの一つは本試験問題だと思っています
なので、過去問は大事だと考えています

以上が過去問の活かし方3点でした

時間配分を考える、問題文に慣れる、足りないものを気付かせるきっかけにする

過去問を使ってこの3つの合格のヒントを得ていました
参考にいただければと思います